

セデック語パラン方言の談話資料「ソメコ」と終助詞の用法*

落合いずみ

京都大学

キーワード：セデック語 談話資料 終助詞

1 はじめに

本稿の目的はセデック語パラン方言の談話を記述することである。本談話は3名の対話という形式を取っている。談話の内容はセデック族旧来の生活習慣に関わる染物の話題であり、染料として用いられる植物についての言及がある。本稿の談話書き起こしの手法として、Du Bois 他(1993)を用いた¹。談話をイントネーション・ユニット(IU)ごとに区切り、IU末の抑揚、発話間の間や、強勢、笑い、相槌などの情報も盛り込んでいる。また、本談話には対人的な働きをする終助詞が多く用いられている。本稿では談話中に現れた4つの終助詞の用法も紹介する。

2 セデック語パラン方言の文法概略

セデック語(オーストロネシア語族アタヤル語群)は台湾中心部から北東に分布する言語であり、セデック族の人口は約二万人である。セデック語はタロコ、トダ、パランの3方言に分かれるとされる(Yang 1976: 611)²。本研究ではパラン方言を考察する。パラン方言は、1930年以前はパラン(霧社)地方一帯で話されていた。現在は南投県仁愛郷に位置する3集落一眉溪、中原、清流一に散在する。これらの集落の人口は合わせて二千人強である。しかし、実際にセデック語パラン方言を流暢に話す人は、中年(40、50代)以上に限られる。そのため、母語話者数はその半数を割ると見込まれる。ほぼすべての話者が中国語(台湾華語)を第二言語とする。日本統治時代(1895-1945年)生まれの人は日本語も多少話することができる。

音素として5つの母音(a, e, i, o, u)と19の子音(p, t, k, q, ʔ, b, d, g, m, n, ŋ, s, x, h, ts, l, r, w, j)を持つ。表記上、tsはcを、jはyを用いる。アクセントは次末音節にある。次

* 本稿に対し、林範彦氏と野島本泰氏から詳細なコメントをいただいた。お礼申し上げます。なお、本稿の不備は筆者の責任である。

¹ 音声の延長を示すのに Du Bois 他(1993)では「= (イコール)」を用いるが、本稿においてこの記号はクリティックに用いている。そのため、音声の延長は Du Bois (2006) に従い、「: (コロン)」で示すことにする。

² Yang (1976) では、タロコ、トダ、パラン方言をそれぞれ集落名で合作方言(南投縣仁愛郷合作村)、春陽方言(南投縣仁愛郷春陽村)、霧社方言(南投縣仁愛郷大同村)と呼んでいる。このうち、霧社方言は1930年代以降、強制移住により霧社集落では話されていないが、Yang (1976) では旧集落名を用いて霧社(Paran)方言とよんでいる。本稿もこの方針に従い、旧集落名のパランを方言名に用いる。

末前の音節は母音が弱化し、母音 u として現れることが多い (Asai 1953 : 3-8)。また、子音、母音ともに長短を区別しない。ただし、談話において長く発音されることがしばしばある³。これは、音を長めることで、語を強調したり、考えごとをしているサインとして談話の間を埋める働きをしている。語を強調するときは次末音節つまり本来アクセントを置くことになっている音節が音声的に長くなる (談話 (30) 参照 *ni : hon* 「日本」)。間を埋める場合は語の最終音節が音声的に長くなる (談話 (9) (10) (13) など参照)。

動詞には、態と時制、または態と命令法、または態と勧誘モダリティを伴う接辞が付く。ボイスには、動作主態 (actor voice; AV) と非動作主態 (undergoer voice; UV) があり、後者は更に 3 種類一対象態 (patient subject; UVP)、場所態 (location subject; UVL)、状況態 (circumstance subject; UVC) 一に分かれる。典型的な動詞に付く接辞の形式を表 1 に示す (Ochiai 2013 : 13 に多少修正を加えた)⁴。例えば語根 *osa* 「行く」の動作主態現在は *m-osa* (AV.PRES-go)、動作主態過去は *mun-osa* (AV.PST-go) (談話 (4))、動作主態命令法は \emptyset -*osa* (AV.IMP-go)、対象態・場所態命令法は *sa-i* (go-IMP.UV) である。進行相は動詞現在形の前に *gisu* や *gaga* を置くことによって作られる (Lin 2005)⁵。否定辞は 4 種類あり、動詞を否定する *ini*、名詞否定や意思否定の機能を持つ *uxe*、禁止の *iya*、存在否定の *uka* に分かれる (Chen 1996)。

表 1 動詞の形態

	動作主態	対象態	場所態	状況態
現在	<um>	-un	-an	su-
過去	<umun>	<un>	<un>...-an	—
未来	mu-/mupu-	C-un	C-an	—
命令	\emptyset -		-i	-ani
勧誘	—		-o, -e	-ane

接語代名詞は、第二位置 (節頭の語の後) に来る。主格と属格があるが 1 人称単数 (= *ku* (1SG.NOM), = *mu* (1SG.GEN)) と 3 人称単数 (= \emptyset (3SG.NOM), = *na* (3SG.GEN))、3 人称複数 (= \emptyset (3PL.NOM), = *daha* (3PL.GEN)) を除き主格と属格が同形である (= *su* (2SG.NOM/GEN), = *nami* (1EP.NOM/GEN), = *ta* (1IP.NOM/GEN), = *namu* (2PL.NOM/GEN))。代名詞には独立形もあり、述語名詞として用いられるほか、接語代名詞とともに現れて強調の働きをする。

基本語順は動作主態の場合 VOA と VS であり、非動作主態の場合は VAO である。動作主態における主語 A と S は、接語代名詞主格を用いる場合は第二位置に現れる。非動作主態にお

³ 閉鎖音または鼻音が最終音節のオンセットの場合はその子音が音声的に長くなり、それ以外の子音がオンセットの場合は次末音節の母音が音声的に長くなる傾向にある。

⁴ C は語幹初頭子音の重複を表す。なお、表 1 はセデック語の動詞形態の一部を示すものであり、動詞の他動性に依じて異なる形態変化が見られる。また音韻形態変化が複雑に適応されるが、本稿では説明を省略する。

⁵ なお、*gaga* は *waga*, *ga*, *wa*, *o* と異形態の関係にある。

る主語 O と動作主 A は、それぞれ接語代名詞の主格と属格として第二位置に現れ得る。接語代名詞の順序は主格が先、属格が後である。主格に接語代名詞を用いない場合は、例えば代名詞独立形や普通名詞や固有名詞を用いる場合は、節末に現れる（例（1-3）参照）。

- (1) *kucug-un* =*su* =*mu*.
fear-UVP.PRES 2SG.NOM 1SG.GEN
あなたを私は怖れる。

- (2) *m-iicu* =*ku* *isu*.
AV.PRES-fear 1SG.NOM 2SG.FREE
私はあなたを怖れる。

- (3) *m-iicu* *isu* *heya*.
AV.PRES-fear 2SG.FREE 3SG.FREE
彼はあなたを怖れる。

3 セデック語パラソ方言の談話資料「ソメコ」

話者は三名—Lawa と Made と Izumi（本稿筆者）である。Lawa と Made はセデック語パラソ方言の母語話者であり、清流集落に在住している。Lawa は 70 代半ばの女性、Made は 50 代半ばの男性である。ちなみに、Izumi は日本語を母語とするが中国語とセデック語も多少使用する。そのため話者 3 名の共通言語として主にセデック語が用いられているが、中国語へのコード変換もよく行われる。また、日本統治時代に生まれた Lawa は、Izumi に対し日本語の単語を混ぜて話すこともある。本談話の録音時間は、139.57 秒（約 2 分 20 秒）である。

話は、Made の知人が染物の仕事を手伝いに行っているということから展開する。Lawa が「ソメコ」という語を使ったことで、Izumi が、その語について尋ねる。Lawa は「ソメコ」は日本語からの借用語でお年寄りが使っていた言葉だと言う。「染め粉」のことだろう。そしてセデック族の間で、染め粉の原料として持ちいられる植物のうち、ふたつを Lawa が紹介する。ひとつは *sero* タイワンサルスベリ (*Lagerstroemia cubcostata*) で、もうひとつは *tuperaq* ソメモノイモ (*Dioscorea cirrhosa*) である。これらが何色の染料として用いられるかの言及はないが、タイワンサルスベリは青系、ソメモノイモは赤系色のようである。また、Made が漢族の染物には藍を使うとして話を締めくくる。なお、現在では清流集落においてセデック族の染物の習慣は継承されていない⁶。

⁶ 訳出はイントネーション・ユニット単位となっているため、話の流れを追いくいかと思われるが、付録の意識を参照していただきたい。本談話にはオーバーラップが多く見られる。特に談話（98）から（103）にかけて会話が複雑に重なり合っている。オーバーラップの始まりは〔複雑なオーバーラップの場合は [[や [[[も用いる〕〕で示されるが、終わりを示す〕は必ずしもひとつのイントネーション・ユニット内で完結するわけではない。別のスピーカーの発話を跨いで終点の記号が現れる場合もある。例えば Lawa（98）で始まるオーバーラップは Izumi（101）とであり、Made（99）を跨いで、Lawa（100）に渡っている。

- (4) Lawa: .. *mun-osa su-ku[^]nuwan.* \
 AV.PST-go PST-when
 (彼女は屏東へ) いつ行きましたか。
- (5) Made: ... *uh yon[^]nichi sa%* \
 FIL four.days hearsay
 四日(前に) だそうです。
- (6) Lawa: *uh yonnichi ye so,* \
 FIL four.days Q like
 四日前ですか。もしかして、そんな風に、
- (7) Lawa: ...(1.2) *gi:su d<um>ayo hiya na%* \
 PROG help<AV.PRES> there PART
 そこでお手伝いをしているのですね。
- (8) Lawa: *ini huwa do malu wana.* \
 NEG CONNEG.do.how COND good.AV.PRES only
 無事ならそれで構いません。
- (9) Made: .. *ga: henu[^]manu di:,* \
 PROG DM what PART
 あんなことをしているのです、ええと、
- (10) Made: *d<um>ayo[^]manu di:,* \
 help<AV.PRES> what PART
 あのお手伝い、ええと
- (11) Made: <L2 染布 L2>.\ \
 dye
 染物
- (12) Made: *kire henu kire[^]peni?* \
 cloth DM cloth PART
 ほら、布、あの、布の(お手伝い)、
- (13) Made: ...(0.8) [*henu uh:,* \
 DM FIL
 あの、

- (14) Lawa: [so[^]meko%? _]
 dye
 ソメコですか。
- (15) Made: ... kire: [pusa-un iro[^]peni]?_
 cloth put-UVP.PRES color PART
 ほら、色を付けられた布のことで、
- (16) Lawa: [someko].\
 dye
 ソメコ
- (17) Made: .. uh: [henu[^]rako].\
 FIL DM pattern
 ええと、模様のこと。
- (18) Lawa: [someko][^]rako.\
 dye pattern
 模様をソメコで付ける。
- (19) Izumi: .. some[ko]:?/
 dye
 ソメコって？
- (20) Made: [kula-un =su]?_
 know-UVP.PRES =2SG.GEN
 あなたは(ソメコという語を)知っていますか？
- (21) Lawa: .. someko.\
 dye
 ソメコ
- (22) Izumi: .. someko?/
 dye
 ソメコ？
- (23) Izumi: .. <L2 好 L2>.\
 O.K.
 わかりました。

- (24) Lawa: *uxe !kari nihon ^peni?* _
 NEG word Japan PART
 (「ソメコ」という語は) 日本語じゃないんですか。
- (25) Lawa: *ki\ya [someko],_*
 that dye
 そうですね (日本語ですよ)。ソメコって言うのは。
- (26) Izumi: [@@@]
 @@@
 (「そうなんですか、私は知りませんよ」という笑い。)
- (27) Izumi: .. *someko?/*
 dye
 ソメコ?
- (28) Lawa: *mhm.*
 BC
 はい。
- (29) Izumi: .. *uh kiya,_*
 FIL that
 あ、そうなんですか。
- (30) Lawa: *kari [ni:hoŋ so^meko].*
 word Japan dye
 「ソメコ」は日本語です。
- (31) Made: .. [*<L2 染布 L2>*] *han.*
 dye PART
 染物のことです。
- (32) Made: .. *someko?/*
 dye
 「ソメコ」ですか?
- (33) Lawa: ...(0.9) *<L2 我- 我有聽到老人說 L2>* *someko.*
 I I.have.heard.old.people.say dye
 お年寄りがソメコと言っているのを聞きました。

- (34) Lawa: <L2 我們 [[XXXX]] L2>.\
 we
 私達は
- (35) Made: [[*sumeko* <L2 還是 L2> *someko*]]?_
 sumeko or *someko*
 スメコですかソメコですか。
- (36) Lawa: ...(0.8) <MRC *someko* MRC>,_
 dye
 ソメコ
- (37) Lawa: <L2 我也不 [太清楚] L2>.\
 I.do.not.know.well
 私もよくわかりません。
- (38) Izumi: [*mhm mhm mhm*].\
 BC
 そうですか。
- (39) Lawa: <L2 只有 L2> *ri-* <L2 聽到老人 L2> *someko*.\
 I.have.only FS heard.old.people.say dye
 お年寄りが「ソメコ」と言うのを聞いただけです。
- (40) Lawa: <L2 我們 % 他們染 L2> *b-* <L2 染布料 L2>.\
 we.they.dye FS dye.cloth
 私達、彼らが布を染めるとき、
- (41) Lawa: <L2 我們 [山地布料也是要]L2>,_
 our.traditional.cloth.need.also
 私達（先住民）の布もそれが必要になります。
- (42) Izumi: [*mhm mhm mhm mhm*].\
 BC
 なるほど。
- (43) Lawa: *ga* *someko* *a*.\
 PROG dye.AV.PRES FIL
 ソメコを使っていたのです。

- (44) Lawa: <L2 黒色藍色 L2>,_
 black.blue
 黒だったり、青だったり、
- (45) Lawa: .. <L2 [白色] L2>
 white
 白だったり。
- (46) Izumi: [h<um>uwa] cukau ^kari nii]?_
 how.do<AV.PRES> use.AV.PRES word this
 その言葉はどう使うのですか。
- (47) Izumi: someko ^rako?/
 dye.AV.PRES pattern
 「someko rako (模様をソメコする)」と言うのですか。
- (48) Lawa: ... someko,_
 dye
 ソメコ
- (49) Lawa: ra- rako,_
 FS pattern
 模様
- (50) Lawa: o someko ware.\
 PROG dye.AV.PRES thread
 「o someko ware (糸を染めている)」と言います。
- (51) Izumi: .. someko ware?_
 dye.AV.PRES thread
 「someko ware (糸を染める)」ですか。
- (52) Lawa: ware.\
 thread
 はい、糸。
- (53) Lawa: t<um>inun,_
 weave<AV.PRES>
 機織の (糸)。

- (54) Izumi: *mhm mhm mhm.*\
 BC
 はい。(ware *tuminun* 機織糸の意味は) わかります。
- (55) Lawa: *t<um>inun.*\
 weave<AV.PRES>
 機織の(糸)。
- (56) Lawa: *someko.*\
 dye
 ソメコ
- (57) Lawa: *X qalux ma [behege X =daha].*\
 X black.AV.PRES conj white.AV.PRES X =3PL.GEN
 黒かったり、白かったり。
- (58) Izumi: [*mhm mhm mhm*].\
 BC
 そうですか。
- (59) Lawa: .. <L2 很多種顔色嘛 L2 >
 many.types.of.colors
 たくさん色があるでしょう。
- (60) Lawa: *some- some--*
 FS FS
 ソメ、ソメ、
- (61) Izumi: *ma: ^manu ka [kari seediq] di?/*
 CONJ what KA word Seediq PART
 それで、(ソメコを) セデック語では何と言いますか。
- (62) Lawa: <L3 *someru* L3>,_
 dye
 染める
- (63) Lawa: ...(1.3) *posa a:,_*
 AV.PRES.put FIL
 付ける、

落合いずみ

- (64) Izumi: .. *rubeg-un* [[^]*iro*] ?/
 soak-UVP.PRES color
 「*rubegun iro* (色付けのために浸す)」ですか？
- (65) Lawa: [*rubeg-un*],_
 soak-UVP.PRES
 (それを) 浸す
- (66) Lawa: *ru- rbeg-un* [^]*iyu* *a:*,_
 FS soak-UVP.PRES medicine FIL
 「*rubegun iyu* (薬に浸す)」ですかね、
- (67) Izumi: .. *iyu?*_
 medicine
 薬ですか？
- (68) Izumi: *rubeg-un* *iyu?*/
 soak-UVP.PRES medicine
 「*rubegun iyu* (薬に浸す)」と言うんですか？
- (69) Lawa: *mhm.*\
 BC
 はい。
- (70) Lawa: <L2 應該 L2 > *rubeg-un* *iyu* *a:*,_
 it.should.be soak-UVP.PRES medicine FIL
 「*rubegun iyu* 薬に浸す」のはずです。
- (71) Lawa: ...(0.8) *s- ado* <L3 *cikatta* L3> *kari ni:hong* [^]*uri rudan*,_
 FS because used word Japan too old.people
 というのも、昔の人は日本語も使ったから。
- (72) Lawa: *rubeg-un* *iyu* *so*[^]*meko m-esa.*\
 soak-UVP.PRES medicine dye AV.PRES-say
 (昔の人は) *rubegun iyu someko* (ソメコに浸す) と言っていました。
- (73) Izumi: .. *mhm*,_
 BC
 そうですか。

- (84) Izumi: <L2 要泡嗎 L2 >.\
 need.soak
 浸さないといけませんか。
- (85) Izumi: .. <L2 泡在 [水裡面] L2>?/
 soak.in.water
 水に浸さないといけませんか。
- (86) Made: [r<u^m>ebu:] iyu ^rako?_
 soak<AV.PRES> medicine pattern
 染料に浸すんですか。
- (87) Lawa: mhm.\
 BC
 はい。
- (88) Made: .. uka ini XX s--
 NEG NEG FS
 …ではないのですか。
- (89) Lawa: .. r<um>ebu ^iyu._
 <AV.PRES>soak medicine
 薬に浸す、
- (90) Lawa: ... r<um>ebu asi rux- r<um>ebu iyu qalux.\
 soak<AV.PRES> just FS soak<AV.PRES> medicine black.AV.PRES
 浸す、単に「rumebu iyu qalux 黒の染料に浸す」と言うのです。
- (91) Lawa: [r<um>ebu] iyu mugusama.\
 soak<AV.PRES> medicine green.AV.PRES
 「rumebu iyu mugusama (緑色の染料に浸す)」と言ったり。
- (92) Izumi: [mhm]._
 BC
 なるほど。
- (93) Izumi: .. mhm._
 BC
 そうなんですね。

- (104) Made: .. *uh sero*,_
 BC Lagerstroemia.subcostata
 そうそう、タイワンサルスベリですね。
- (105) Lawa: ... *sero* *ma:*,_
 Lagerstroemia.subcostata CONJ
 タイワンサルスベリに、それに、
- (106) Lawa: *rubeg-un* *hiya ma% tu^peraq.*\
 soak-UVP.PRES there CONJ Dioscorea.cirrhusa
 (布を) そこに浸して、それからソメモノイモも。
- (107) Made: .. *uh*,_
 BC
 あ、そうでしたね。
- (108) Lawa: .. *tuperaq* *a lumiqu*
 Dioscorea.cirrhusa FIL mountain
tuperaq *a* <L2 有一個好像 L2>,_
 Dioscorea.cirrhusa FIL one.like
 野生のソメモノイモ、ソメモノイモ、それはあれに似た、
- (109) Lawa: <L2 地瓜一樣 L2>.\
 like.sweet.potato
 サツマイモみたいな、
- (110) Lawa: <L2 山上 [拿的] L2>.\
 available.in.mountain
 山で採れる、
- (111) Izumi: [*mh̄m mh̄m*],_
 BC
 へえ。
- (112) Lawa: ...(0.9) <L2 染布 L2>,_
 dye
 布を染める、

- (113) Made: *niq-an naq a [henu na] manu di.*\
 stay-UVL.PRES EMPH FIL DM 3SG.GEN what PART
 あれもありますよ、何でしたっけ。
- (114) Lawa: [*tuperaq*].\
 Dioscorea.cirrhusa
 ソメモノイモ。
- (115) Made: *kihilan uri han waso so hari sudu:,_*
 Hakka too PART leaf like more.or.less grass
 (閩南人以外に) 客家人も使うもので、葉を使います、草のような、
- (116) Made: *so nii kun-^reko: me--*
 like this NMLZ-tall FS
 草丈はこれくらいで、
- (117) Made: *niq-an ηerac =mu ^uri.*\
 stay-UVL.PRES outside =1SG.GEN too
 私の庭にもありますよ。
- (118) Made: ... (0.7) <L2 大青 L2> *kes-un =daha ^kii.*\
 Persicaria.tinctoria say-UVP.PRES =3PL.GEN that
 それは、(漢族に) 大青 と呼ばれているものです。
- (119) Izumi: .. *mhm,_*
 BC
 そうですか。
- (120) Made: ... *ma henu <L2 藍色的 L2> kiya han.*\
 CONJ DM blue that PART
 青いものです。
- (121) Lawa: *mu-n^tena hari [kihilan daha] seediq hini ^uri?_*
 AV.PRES-same more.or.less Hakka CONJ Seediq here too
 ここのセデック族と客家人は(染物の習慣が) 同じだということじゃないですか。
- (122) Made: [*<L2 藍色 L2>*].\
 blue
 青に染めるものです。

- (123) Lawa: ...(1.0) *cukau someko kana cu^beyo han.* \
 use.AV.PRES dye all past PART

昔はみんなソメコを使っていましたよ。

- (124) Made: *mhm.* \
 BC

そうですね。

- (125) Lawa: .. *posa: iro ^lukus ^peni?* \
 putAV.PRES color clothes PART

ほら、服に色を付けるのに。

4 四つの終助詞

まず、セデック語の終助詞に関する先行研究として3つがあげられる。セデック語タロコ方言について、Tsukida (2003) は10個の終助詞 (1. *wa*, 2. *wah*, 3. *'u*, 4. *'ur*, 5. *ha*, 6. *hug*, 7. *huwa*, 8. *heki*, 9. *binaw*, 10. *pini*) の意味、例文、文の種別による分布の違いなどを提示している。本節で扱うパラソ方言の終助詞のうち、タロコ方言の終助詞と形式上で重なるのは、パラソ方言の *peni* とタロコ方言の *pini* である。この形式はタロコ方言では確認や提案 (confirmation, suggestion) に用いられる (Tsukida 2003 : 226)⁷。

小川・浅井 (1935 : 564) は、「セデック語は一表現 (文) の終に助辭を附すこと多し」と述べ、タロコ方言・パラソ方言の「文尾助辭」を挙げている。パラソ方言の文尾助辭は6つあり、*da* は「完成體」、*ga/wa* は「強意」、*di* も「強意」、*ho* は「疑問」、*peni* は「不確」の意味を持つとしている。小川・浅井 (1935) の文尾助辭のうち、本稿で扱う終助詞に含まれるのは *peni* のみである。この終助詞について、*wada mu-huqil peni* 「死せしとか」 (PST AV.PRES-die PART (グロス筆者による)) の一例で「不確」を説明している。本稿では談話における *peni* の出現文脈により意味と機能の説明を試みる。

次に、パラソ方言について Holmer (2005) は、末尾助詞 (final particles) が文末又は節末に現れるとし、樹形図によって語順の説明をしている。彼の挙げる助詞は5つ—*di* (perfect), *na* (yet), *do* (if), *sa* (quotative), *peni* (particle) であり、それぞれ括弧内は Holmer の付けたグロスである。それらの意味・機能について “*di* and *na* have Tense/Aspect connotations, *do* is a subordinator, *sa* represents some kind of evidential meaning, and *peni* is almost untranslatable into English, but serves as a discourse connector” と述べているにとどま

⁷ タロコ方言の10個の終助詞のうち、Tsukida (2003) の掲げた3、4、6、8以外は、パラソ方言にも同源語が存在する (4. *'ur* はパラソ方言の *uri* 「～もまた」に相当するのかもしれない)。同源語のうちで、タロコ方言の1. *wa*、2. *wah*、5. *ha*、7. *huwa* についてはパラソ方言も同一形式であり、9. *binaw* はパラソ方言では9. *binu* となる。これらのうち、パラソ方言で終助詞として使われていると思われるのは1. *wa* と5. *ha* のみであり、2. *wah* は感嘆詞、7. *huwa* は動詞に使われる。9. *binu* は未調査である。各形式について終助詞の用法の有無を検討するのは今後の課題である。また、月田 (2009 : 331-334) にもこれらの語についての考察がまとめられている。

る。これらの助詞のうち、本稿で扱う終助詞に含まれるのは、*sa* と *peni* である。また、*na* は Holmer に同一形式があげられているが、「もう、まだ」を意味する語であり、本稿で扱う *na* とは異なる機能を持つ同音異義語である⁸。

Holmer が discourse connector と示唆しているように、セデック語の終助詞は自然発話において話し手が聞き手に何らかの働きかけをする機能を持つため、言語調査者が文の正誤をたずねたり、例文を引き出すという、作為的な状況ではなかなか現れない。自然発話という状況において、前後の会話の流れを考慮した上での考察が不可欠である。本稿では、談話資料「ソメコ」において得られた終助詞の用法を紹介する。本稿で言うところの終助詞とは文末に現れる助詞であり、その後何も後続しない場合を指す。「ソメコ」には、*na*、*sa*、*peni*、*han* の4つの終助詞が表れる。順に出現回数は、1回、2回、4回、6回であった。本節では、これらの終助詞の用法を説明する。

4.1 *na* 「確信の高い確認」

話し手が、すでに何らかの情報を得ているか、何らかの事柄を自分なりに理解している状況において、同じ情報を持っている、または同じ理解をしているだろうと想定される聞き手に対して念を押す用法で使われる⁹。談話(7)では、共通の知人が染物の手伝いに行っていることは、先の文脈で言及があるのだが、その上で、「そこへ手伝いに行っている」という情報を再度繰り返して確認をしている。談話(7)を以下に再掲する。

(126) Lawa: ...(1.2) *gi:su d<um>ayo hiya na%* (=7)

PROG help<av.pres> there PART

そこでお手伝いをしているのですね。

終助詞の *na* 以外に文末に現れ得る同音異義の *na* がほかにふたつある。ひとつは Holmer (2005) にも言及のある *na* (yet) であり、肯定文において「もう(した)」、否定文において「まだ(していない)」の意味を表す。もうひとつは3人称単数属格を表す接語代名詞の *=na* であり、名詞に後続して所有表現を作る(例 *sapah =na* 「彼の家(*sapah* 「家」)」。このふたつの *na* と、終助詞の *na* は、文末のピッチや音色で区別され得る。終助詞の *na* は前部の音節よりもピッチが高く、しばしば声門閉鎖音を伴って現れる(「もう、まだ」を意味する *na* と接語代名詞の *na* は前部の音節よりピッチが高くなることはない)。例(126)として再掲した談話(7)においても声門閉鎖音が現れている(%がその記号)。確認の *na* 作例を(127-128)に示す。作例(128)に見られるように、*na* は文のあとにポーズを置いて単独で使われることもある¹⁰。

⁸ 助詞の *di* は小川・浅井(1935)ですでに報告されているが、本談話では調査者の発話を除き、*manu di* 「ええと…」という定型表現での出現のみであったため、考察対象からはずしている。また、Holmer (2005) が挙げている助詞の *do* は、終助詞ではなく接続助詞である。

⁹ もうひとつの用法として、聞き手は話し手の持っている情報を知らないが、「こういう事柄ですから覚えてください、その上で話を進めます」という意味で使われることもある。

¹⁰ 一音節であるが、例外的にアクセントを担っていると見なせる。

- (127) *b<un>ari =su hori lukus nii na.*
 buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this PART
 この服はあなたが埔里で買ったのですよね、きっとそうでしょう（埔里は地名）。

- (128) *b<un>ari =su hori lukus nii. na.*
 buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this PART
 この服はあなたが埔里で買ったのですよね、きっとそうでしょう。

4.2 *peni* 「確信の低い確認」

談話 (12), (15), (24), (125) に現れる。話し手自身が、ある事柄についてある程度理解しているが明確な情報を持ち合わせていないか、思い出すのに困難を伴う状況において、聞き手に何らかの情報の提供を求める働きがある。「確信の高い確認」の終助詞 *na* に対し、確信の低い確認の終助詞と言える。この終助詞 *peni* は二音節であるため、音節構造としてアクセントを担うことが可能である。また同時に、相手の反応を促すという訴えのイントネーションにも組み込まれ、ほとんどの場合で *peni* の第一音節に文強勢が置かれて現れる。ただ、すべての *peni* が相手の反応を求めているわけではない。不確実な理解ではあるけれど、という意味をこめた感想やコメントを述べるだけの場合もある（談話 (125)）¹¹。例 (129)（談話 (24)）は聞き手 (Izumi) に対し、「ソメコ」は日本語からの借用語だと思っていましたが、そうでしょう。違いますか。」と反応を促しているところである。例 (130)（談話 (125)）は、話し手本人が旧来の染物の習慣を直接体験してきて知っているわけではないから、はっきりとは言えないが、昔の人は漢族もセデック族も糸や布を染めて服を作る習慣は同じではなかったのかと感想を述べている。さらに、この終助詞の作例を (131) に示す。

- (129) Lawa: *uxe !kari nihon ^peni?_* (=24)
 NEG word Japan PART
 「ソメコ」という語は）日本語じゃないんですか？

- (130) Lawa: .. *posa: iro ^lukus ^peni?_* (=125)
 AV.PRES.use color clothes PART
 ほら、服に色を付けるのに。

- (131) *b<un>ari =su hori lukus nii peni.*
 buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this PART
 （恐らくそうだと思いますが）この服はあなたが埔里で買ったのですよね。

¹¹ 最終音節のピッチが第一音節より高くなる場合も稀にある。また、*peni* には、話し手と聞き手が共通知識として持っている事柄のひとつを取り出して提起し、会話に関わる事柄を想起させる機能もあるが、本談話には現れないため説明を省略する。

4.3 sa 「伝聞」

他人から聞いたことを伝える用法であり、「～らしい」、「(誰々によれば) ~だということだ」などの意味を表す。談話(5)では、「その人はいつそこへ行ったのか」という問いに対して、「四日前と聞いています」と答えている場面である。以下に再掲する¹²。

(132) Made: ... *uh yon[^]nichi sa%*.\ (=5)

FIL four.days hearsay

四日(前に) だそうです。

引用の *sa* の語源は *m-esa* 「言う (AV.PRES-say)」という動詞である。動詞が期待される位置は文頭であるため、*mesa* も作例(133)に見られるように文頭に現れ得る¹³。ところが談話(72)にあるように、*mesa* は文末、つまり *sa* の現れる位置に現れることもある((134)として再掲)。ふたつとも文末に現れ得ること、意味の類似性と音の類似性から、*mesa* と *sa* の関連は明らかである。動詞 *mesa* から *me* が脱落した形式が *sa* である。文末に現れる *mesa* 「言う」が文法化し、伝聞の機能を持つ *sa* になったのだろう。伝聞の *sa* の作例を(135)に示す。

(133) *m-esa rubeg-un iyu someko sa.*

AV.PRES-say soak-UVP.PRES medicine dye hearsay

ソメコに浸すと言ったらしいです。

(134) Lawa: *rubeg-un iyu so[^]meko m-esa.*\ (=72)

soak-UVP.PRES medicine dye AV.PRES-say

(昔の人は) *rubegun iyu someko* (ソメコに浸す) と言っていました。

(135) *b<un>ari =su hori lukus nii sa.*

buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this hearsay

(ある人から) この服はあなたが埔里で買ったのだと聞きました。

4.4 han 「一次情報の標示」

この語にはふたつの意味・用法がある。「先に(時間的により早く)」、「先ずは」を意味する副詞と、一次情報を表す終助詞である。この形式 *han* は *hayan* 「先に、先ず」という意味を持つ副詞が音の縮約により変化したものである。そのため *hayan* と同様に、「先に、先ず」という意味の副詞として用いられることもある。Tseng (2006: 122) から *hayan* と *han* の両方が「先に、先ず」として使われている例を(136)に挙げる¹⁴。首狩りに出かけた男たちは、初めのうちは形勢が良かったが、しばらくして亡くなるという話である。そしてこの例では、*hayan* と

¹² この *sa* に似た機能を持つ終助詞として *si* がある。分布や意味の違いについては今後の課題とする。

¹³ 文末に終助詞の *sa* が無いと不自然な文になるとの判断が得られた。

¹⁴ Tseng (2006) の表記法に多少の修正を加えている。

han が「当初は」という意味で使われている。また、この用法は意味的に古い・早いという時間関係を表す語と一緒に現れることが多い。談話 (123) では *cubeyo* 「昔」の後に *han* が現れている ((137) として再掲)。

- (136) *ma malu bale hayan si, deheya di.*
 CONJ good.AV.PRES real first hearsay 3PL.FREE PART
m-eyah di sa,
 AV.PRES-come PART hearsay
malu ba karac han si.

good.AV.PRES real sky first hearsay

「それで、初めは良かったそうです。彼ら (の状況) はね。(それから) 戻ってきたそうです。初めは天気がよかったです。」

- (137) Lawa: ...(1.0) *cukau someko kana cu^beyo han.* \ (=123)
 AV.PRES.use dye all past PART

昔はみんなソメコを使っていましたよ。

さらに、時間的により早いという意味・用法から文法化により生じたと考えられるのが一次情報の標示という機能である。この場合、終助詞として *hayan* という形式は使われず、もっぱら *han* が用いられる。終助詞の *han* は聞き手が同じ情報を共有しているかどうかに関わらず、話し手の理解や知識を疑問の余地の無いものとして提示する働きがある。談話では (31), (94), (98), (100), (120), (123) に見られる。ここではひとつづきになっている (98) と (100) を (138-139) として再掲する。閩南人が植物を染料にすると Made が言ったのに対し、Lawa が (私達) セデック人こそ本来そのようにするのだと述べるところである。また、*han* を使った作例を (140) に示す。

- (138) Lawa: *so [kiya hini] uri [[han.]* \ (=98)
 like that here too PART

ここでも同じですよ。

- (139) Lawa: *r<um>ebu]] sero han.* \ (=100)
 <AV.PRES>soak Lagerstroemia.subcostata PART

タイワンサルスベリに浸すんですよ。

- (140) *b<un>ari =su hori lukus nii han.*

buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this PART

(あなたは忘れていたみたいだから言うけれど) この服はあなたが埔里で買ったのですよ。

4.5 終助詞の共起条件についての考察

ここまで4つの終助詞、*na*「確信の高い確認」、*peni*「確信の低い確認」、*sa*「伝聞」、*han*「一次情報の標示」を紹介した。それぞれの終助詞につき、ほかの3つの終助詞と共起できるかどうかを考察してみた。結果、どの組み合わせでも共起できないことがわかった。それらの組み合わせとは *na peni* (142), *na sa* (143), *na han* (144), *peni na* (145), *peni sa* (146), *peni han* (147), *sa na* (148), *sa peni* (149), *sa han* (150), *han na* (151), *han peni* (152), *han sa* (153) の12である。作例の基となる例文を(141)に示す。例文(141)に対し、終助詞をふたつ付けて共起条件を試している¹⁵。ただし、(148)の*sa na*の非文法性に対し、*na*の前にポーズが置かれ(前の文から切り離され)、*na*が単独で発音される場合は許容される(154)。

- (141) *b<un>ari =su hori lukus nii.*
 buy<PST> =2SG.GEN Hori clothes this
 この服はあなたが埔里で買いました。
- (142) **bunari =su hori lukus nii na peni.*
- (143) **bunari =su hori lukus nii na sa.*
- (144) **bunari =su hori lukus nii na han.*
- (145) **bunari =su hori lukus nii peni na.*
- (146) **bunari =su hori lukus nii peni sa.*
- (147) **bunari =su hori lukus nii peni han.*
- (148) **bunari =na hori lukus nii sa na.*
- (149) **bunari =na hori lukus nii sa peni.*
- (150) **bunari =na hori lukus nii sa han.*
- (151) **bunari =su hori lukus nii han na.*
- (152) **bunari =su hori lukus nii han peni.*
- (153) **bunari =su hori lukus nii han sa.*
- (154) *bunari =na hori lukus nii sa. na.*

¹⁵ ただし、(148-150)と(154)は接語代名詞が=*su* (2SG.GEN)ではなく、=*na* (3SG.GEN)である。意味は「あの人はこの服を埔里で買った。」となる。

また、4つの終助詞と極性疑問文との共起の可能性も試してみたが、4つの終助詞ともに非文法的であるとの判断が得られた(156-159)。極性疑問文の基となる文法的な作例を(155)に示す。命令文とも共起できないこともわかった(161-164)。命令文の基となる文法的な作例を(160)に示す。本来、終助詞 *na* と *peni* の場合は相手に確認を取ったり反応を促す機能を備えているため、疑問法との機能と類似する部分がある。それゆえ *na* や *peni* を使って相手に問いかける文を、さらに極性疑問文に変えて、二重の疑問標示をすることが許容されないと考えられる¹⁶。終助詞 *sa* や *han* の場合は情報を伝える役目を負っているのもともと疑問や命令というムードとはかみ合わないことから、共起不可能であることが理解できる¹⁷。

(155) *ye =su b<un>ari hori lukus nii.*
 Q =2SG.GEN buy<PST> Hori clothes this
 この服は埔里で買いましたか。

(156) **ye =su b<un>ari hori lukus nii na.*

(157) **ye =su b<un>ari hori lukus nii peni.*

(158) **ye =su b<un>ari hori lukus nii sa.*

(159) **ye =su b<un>ari hori lukus nii han.*

(160) *burig-i hori lukus nii.*
 buy<UV.IMP> Hori clothes this
 この(ような)服を埔里で買いなさい。

(161) **burig-i hori lukus nii na.*

(162) **burig-i hori lukus nii peni.*

(163) **burig-i hori lukus nii sa.*

(164) **burig-i hori lukus nii han.*

5 おわりに

本稿は、セデック族の染物文化の一端に触れた談話資料「ソメコ」(約2分20秒、122イントネーション・ユニット)を紹介した。談話中に現れた4つの終助詞—*na*「確信の高い確認」、*peni*「確信の低い確認」、*sa*「伝聞」、*han*「一次情報の標示」—の用法も説明したが、この4つでセデック語パラソ方言の終助詞を網羅するわけではない。また、この4つについても他の

¹⁶ ただし、*peni* の場合は疑問詞 *ima*「誰」や *inu*「どこ」と共起できる。

¹⁷ 例文(159)と(164)に対し、「先に、先ず」という意味の *hayan* は許容された。
ye su bunari hori lukus nii hayan.「この服は埔里で先に買ったのですか。」
burigi hori lukus nii hayan.「この(ような)服を先に埔里で買いなさい。」

用法があるかどうか調べる必要がある。すべての終助詞の各用法を記述するのが今後の課題である。

付録

「ソメコ」意識

Lawa (彼女は屏東へは) いつ行きましたか。

Made 四日前だそうです。

Lawa そうですか。四日前ですか。そこでお仕事を手伝っているのですね。無事なら構いません。

Made ran³bu⁴ (染物) の手伝いをしているそうです。ほら、あの、布に、

Lawa ソメコですか。

Made 布、ほら、色をつける布のことです。

Lawa ソメコですね。

Made 模様をつけたりする、

Lawa ソメコで色付けするんですね。

Izumi ソメコは何のことですか。

Made (Izumi に対して) ソメコという言葉を知っていますか。

Lawa 日本語ではないのですか。日本語ですよ。ソメコは。

Izumi ソメコ? そうなんですか。

Lawa はい。ソメコは日本語です。

Made ran³bu⁴ (染物) のことですよ。ソメコで (発音は) 合っていますか。

Lawa お年寄りがソメコと言っているのを聞きました。

Made スメコですかソメコですか。

Lawa 私にもよくわかりませんが、お年寄りがソメコと言うのを聞きました。私達が布を染めるのに必要なものでした。(以前は) ソメコを使っていました。黒や青や白に染めました。

Izumi ソメコ (という言葉) はどうつかいますか。 *someko rako* (色をソメコする) と言いますか。

Lawa *someko ware* (糸をソメコする) と言います。

Izumi *someko ware* (糸をソメコする) ですか。

Lawa はい。機織の糸です。黒かったり、白かったりたくさん色があります。

Izumi ソメコをセデック語では何と言いますか。

Lawa 染める、

Izumi *rubegun iro* (色に浸す) ですか。

Lawa *rubegun iyu* (葉に浸す) です。

Izumi *rubegun iyu* (葉に浸す) ですか。

落合いずみ

- Lawa はい。 *rubegun iyu* (薬に浸す) のはずです。
- Lawa 昔の人は日本語も使ったから、 *rubegun iyu someko* (ソメコ薬に浸す) と言っていました。
- Izumi *rubegun iyu someko* (ソメコ薬に浸す) ですか。
- Made *rumicuh rako* (色を塗る) とは言いませんか。
- Izumi *rumicuh rako* (色を塗る) ですか。
- Lawa *rumicuh iyu* (薬を塗る) です。単に *rumicuh*… と言えば、
- Izumi 水に浸さないといけませんか。
- Made 染料に浸しますか。
- Lawa はい。薬に浸します。 *rumebu iyu qalux* (黒い薬に浸す) と言います。
- Lawa *rubebu iyu mugusama* (緑色の薬に浸す) と言ったり。
- Made そういえば閩南人の中にはある種の植物を刈る人がいますよ。
- Made その植物を水に浸して、布をあんなふうには、
- Lawa ここでも同じですよ。タイワンサルスベリに浸すんですよ。
- Made そうそう。タイワンサルスベリですね。
- Lawa タイワンサルスベリに浸したり、ソメモノイモもそうです。
- Lawa 野生のソメモノイモはサツマイモみたいな形をしていて、山で採れるものです。
- Made 他にもありますよ。客家人も使うもので、草のような、これくらいの丈のもので、私の庭にもあります。 *da⁴qing¹* (藍) と呼ばれているものです。青く染めるものです。
- Lawa セデック族と客家人は (染物の習慣が) 同じだということじゃないですか。昔はみんなソメコを使っていましたよ。服に色を付けるのに。

談話書き起こし記号

..	short pause (less than 0.2 second)
...	medium pause (between 0.3 and 0.6 second)
...(0.7)	long pause (more than 0.7 second)
.	transitional continuity [final]
,	transitional continuity [continuing]
?	transitional continuity [appeal]
\	terminal pitch direction [fall]
/	terminal pitch direction [rise]
—	terminal pitch direction [level]
\(inside word)	falling tone
^	accent
%	glottal stop
:	lengthening

!	booster
- (followed by a space)	truncated word
--	truncated intonation unit
[/[/[]]	speech overlap
@	laughter
<@ @>	speech quality [laughing]
<L2 L2>	code switching to Mandarin
<L3 L3>	code switching to Japanese
<MRC MRC>	marcato, each word distinct and emphasized
uh	awareness, responses
mhm	affirmative responses
X	indecipherable syllable

略号一覧

AV: actor voice, BC: back channel, COND: conditional, CONJ: conjunctive, CONNEG: con-negative, DM: discourse marker, EMPH: emphatic, EP: exclusive plural, FIL: filler, FS: false start, FREE: free pronoun, GEN: genitive, HORT: hortative, IMP: imperative, IP: inclusive plural, NEG: negative, NMLZ: nominalizer, NOM: nominative marker, PART: particle, PL: plural, PRES: present, PROG: progressive, PST: past, Q: question, UV: undergoer voice (patient and location), UVC: undergoer voice circumstance subject, UVP: undergoer voice patient subject, UVL: undergoer voice locaiton subject, 1: first person, 2: second person, 3: third person, < >: infix, = : clitic pronoun, - : morpheme boundary

参考文献

- Asai, Erin (1953) *The Sediq language of Formosa*. Kanazawa: Cercle Linguistique de Kanazawa.
- Chen, Jye-Huei (1996) The negators in Seediq. Master's thesis, National Tsing Hua University.
- Du Bois, John W. (2006) Basic symbols for discourse transcription. *Transcription in action: Resource for the representation of linguistic interaction*. Department of Linguistics, University of California, Santa Barbara, accessed March 26, 2015, <http://www.linguistics.ucsb.edu/projects/transcription/representing>.
- Du Bois, John W., Stephen Schutze-Coburn, Susanna Cumming, and Danae Paolino (1993) Outline of discourse transcription. In Jane A. Edwards and Martin D. Lampert (eds.) *Talking data: Transcription and coding in discourse research*, 45-89.

Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates.

- Holmer, Arthur (2005) Seediq: Antisymmetry and final particles in a Formosan VOS language. In Andrew Carnie, Sheila Dooley, and Heidi Harley (eds.) *Verb First: On the Syntax of Verb-initial Languages*, 175-201. Amsterdam: John Benjamins.
- Lin, Hsiu-hsu (2005) The grammaticalization of tense/aspect auxiliaries in Seediq. *Concentric: Studies in Linguistics* 32(2): 111-132.
- Ochiai, Izumi (2013) Tgdaya Seediq verbal morphology. Master's thesis, Kyoto University.
- 小川尚義・浅井恵倫 (1935) 『原語による台湾高砂族伝説集』台北：台北帝国大学言語学研究室.
- Tseng, Temi Nawi C. (2006) 『賽德克族口述傳統文化故事』[Seediq narratives on traditional cultures] 仁愛鄉：南投縣天主教山地服務研究社.
- Tsukida, Naomi (2003) Distribution of sentence final particles. In Kitano Hiroaki (ed.) *Descriptive and theoretical studies in minority languages of east and southeast Asia* [ELPR Publication Series A3-016], 225-234. Osaka: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University
- 月田尚美 (2009) 「セデック語 (台湾) の文法」 博士論文, 東京大学.
- Yang, Hsiu-fang (1976) The phonological structure of the Paran dialect of Seediq. *Bulletin of the Institute of History and Philology, Academia Sinica* 47: 611-706.